

インフォデ

# 「スマートOCRクラウドサービス」発売 非定型帳票のデータ化を実現

アイリックコーポレーションの100%子会社の㈱インフォデは、AI-OCR(ディープラーニングによるOCR)を用いた「スマートOCRクラウドサービス」(注2)の販売を10月1日から開始した。価格は月額3万円か

ら。「スマートOCRクラウドサービス」は会計業務に特化したAI-OCRウェアサービスで、請求書版、発注書版等、さまざまなバリエーションを順次リリースする。ウェブブラウザさえあれば、スキナー、複合

機、スマートフォンアプリ等で読み込んだ請求書や発注書の画像をOCR変換し、インテリジェントデータ抽出機能により請求金額、請求日、請求元会社名、振込先口座情報、明細情報等を自動的に抽出することができる。

抽出されたデータは、CSV出力、API連携、RPA(注3)等により会計システムに取り込むことができる。「働き方改革」が叫ばれるようになり、労働生産性の向上は重要なテーマとなっている。ホワイトカラーの生産性向上のためにRPAなどの業務自動化のソリューションが導入されつつあるが、紙帳票のデータ化は

が現状だ。様式が定まっている定型フォーマット帳票のデータ化は従来のOCRでも可能だったが、請求書、発注書、健康診断書等の様式が定まっていない非定型フォーマット帳票のデータ化は難しく、多くの人手を要している。

同サービスは、さまざまなフォーマットの紙帳票をデータ化することが可能なAI-OCRウェアシステムで、2018年5月から開始した住友生命との共同開発では健康診断書のデータ化開発を行っており、既に生命保険等の保険証券の読み取りに利用されている。

「働き方改革」が叫ばれるようになり、労働生産性の向上は重要なテーマとなっている。ホワイトカラーの生産性向上のためにRPAなどの業務自動化のソリューションが導入されつつあるが、紙帳票のデータ化は

が現状だ。様式が定まっている定型フォーマット帳票のデータ化は従来のOCRでも可能だったが、請求書、発注書、健康診断書等の様式が定まっていない非定型フォーマット帳票のデータ化は難しく、多くの人手を要している。

同サービスは、さまざまなフォーマットの紙帳票をデータ化することが可能なAI-OCRウェアシステムで、2018年5月から開始した住友生命との共同開発では健康診断書のデータ化開発を行っており、既に生命保険等の保険証券の読み取りに利用されている。

この共同開発では健康診断書のデータ化開発を行っており、既に生命保険等の保険証券の読み取りに利用されている。

これまで人間が手作業で行ってきた仕事を、機械やソフトウェアなどに代行してもらうことにより、業務の大部分における自動化や効率化を図る取り組み。

Factor Recognition: 光学式文字読み取り装置。印刷物などの文字を、光を当てることで読み取り、テキストデータに変換する仕組み。

(注2) 「スマートOCR」は、さまざまなフォーマットの紙帳票をデータ化することが可能なAI-OCRウェアシステムで、2018年5月から開始した住友生命との共同開発では健康診断書のデータ化開発を行っており、既に生命保険等の保険証券の読み取りに利用されている。

(注3) Robotic Process Automation: これまで人間が手作業で行ってきた仕事を、機械やソフトウェアなどに代行してもらうことにより、業務の大部分における自動化や効率化を図る取り組み。